

やまとの名品 天理図書館



ひやくまんとうだらに 百万塔陀羅尼

天平宝字 8 年(764)～宝亀元年(770)印

縦5.3～6cm 横27.3～63.3cm

(上から六度、相輪、自心印、根本)

天理図書館 百万塔陀羅尼

今回は刊行年の明らかな現存世界最古の印刷物である奈良朝の「百万塔陀羅尼」をご紹介します。「百万塔陀羅尼」とは、四種類の「無垢浄光経陀羅尼」（根本・相輪・自心印・六度）を印刷し、木製の三重小塔に各一種の塔の数で、陀羅尼は、漢字で印行された梵語の経文である。「続日本紀」「東大寺要録」などによれば、藤原仲麻呂の乱で戦没した敵味方の冥福を祈るために、奈良時代の女帝称徳天皇の発願によって、天平宝字八年（七六四）に始まり、宝龜元年（七七〇）に完成し分置された。四種類の印刷された陀羅尼のうち、

一種を塔身に納め、百万基を十大寺に各十万基ずつ納めたといふ。その寺は、大安寺・元興寺・興福寺・薬師寺・東大寺・西大寺・法隆寺の南都七大寺と、大和の弘福寺（川原寺）、摂津の四天王寺、近江の崇福寺の各寺だと記録するが、法隆寺以外の九寺にはその遺品はなく、天災・兵火などで散逸・焼亡した。塔の用材は松で、陀羅尼の料紙には写経・公文用紙として使われた麻紙・楮紙などが用いられている。

ところでこの時代、これだけの数のものがどのような版式で印刷されたのだろうか。江戸時代寛政期（一八〇〇年頃）の藤

原貞幹の頃より、銅版説・木版説があり、学会でも決定されていない。天理図書館では、昭和三十八・四十年の二回、研究者を集めた座談会を行なって検討したが、木版説がやや有利となったものの結論はでなかった。

現代の大量印刷の時代にあつて、千二百五十余年も前の祈りの印刷資料が残っているとは、何とすばらしいことであろうか。

（天理図書館 加藤重光）



百万塔 高さ 21.2cm

天理図書館のお知らせ Tel: 0743-63-9200 <http://www.tcl.gr.jp/>
◆平日（午前9時～午後5時半） 土・日・祝（午前9時～午後4時半）
○3月の休館日: 17日・27日～31日
（本欄にて紹介した名品の閲覧については係へお尋ねください）